

## 十数年振りの餅つき

「昔を思い出して感動した」と大変喜んでいただきました

12月28日、当院にて十数年振りの餅つきを行いました。以前中心となっていた職員がほとんどおらず、事前の準備から当日の行程まで手探りのなかでの開催でしたが、なんとか無事お餅をつくことができました。

つきたてのお餅を小分けにラッピングし、院長のメッセージをつけ今年一年頑張ってくれた全職員へ配布しました。その他、スタッフの発案で入院中の患者様へも見て頂こうと、白を院内へはこび、餅つきのパフォーマンスを披露



ました。患者様からは「昔を思い出して感動した」と大変喜んでいただきました。年の瀬の年間行事として今後は毎年開催していきたいと思ひます。

## 編集後記

映画「ボヘミアン・ラブソディ」を二度見た。この映画は、複数回見たと言う人が多いそうだ。「クイーン」の大ファンと言うわけではない。高校時代に友達がバンドを組んで歌っていた。映画「ボヘミアン・ラブソディ」は、リードボーカルのフレディ・マキュリーの生き様を中心に、移民・宗教・LGBTなど葛藤が描かれている。ラストシーンのアフリカ難民救済を救う音楽イベント「ライブ・エイド」の場面は圧巻だった。マイノリティーなるがゆえの苦悩、孤独、そして愛とは、生きるとは、多様性と

は、寛容とは…を感じさせてくれた。今年の正月明け、「クイーン」のギタリストのブライアン・メイ氏は、辺野古への米軍基地建設工事を求めるアメリカのホワイトハウスへの誓願署名に加わり、SNSを通じ、「米軍基地の拡張により脅かされている美しいサンゴの海とかけがえのない生態系を守ろう」と緊急の呼びかけを行っている。

2019年。私たちは多様性を認め、寛容で、ひとりひとりがつながることで、平和な世界を築いていく年としたい。



### 交通アクセス

長崎バス・二本松口経由ダイヤランド行き「上戸町」バス停下車すぐ

救急からリハビリ・在宅まで安心できる病院をめざして  
社会医療法人 健友会



## 上戸町病院

〒850-0953 長崎市上戸町4丁目2-20  
TEL 095-879-0705 FAX 095-879-3388  
地域連携室  
TEL 095-832-5615 FAX 095-832-5616

<http://www.kenyukai.or.jp>

上戸町病院のHPもご覧ください。

上戸町病院 検索



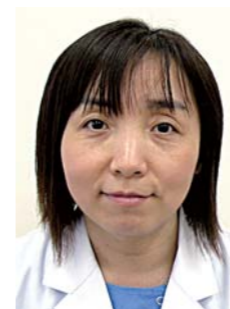
社会医療法人 健友会  
上戸町病院

# すこやか上戸町

2019.1月発行 第29号 発行元：上戸町病院地域連携室 発行責任者：三宅裕子

今年も  
地域の皆様と  
ともに

ごあいさつ



上戸町病院  
三宅裕子

あけましておめでとうございます。

昨年末から、私たちは「ソーシャル・バイタルサイン(SVS)」チェックの実践を始めました。通常の「バイタルサイン」が生命徴候、つまり「生きている証」とすれば、SVSは、「人間らしく生活する証」といえます。食生活、住居、ライフライン、社会的基盤や人間関係など、患者さんの生活背景を把握す

る実践です。私たちの周囲には、経済的な厳しさや社会的孤立など、多様な困難を抱える患者様が大勢おられます。社会的要因に対する視点や対応が不可欠の要素です。

今年も、みなさんと協力しあい、地域に住む患者様の生活にまで目配りできる医療機関をめざしてまいります。

なにとぞよろしくお願いいたします。



シンボルマークの意味 桃色は、平和の象徴の鳩 緑色は、病院を囲む上戸町の自然 赤色は、病院で働く人達の情熱を表しています。2011.5月に病院内で募集し、投票の結果、当選したシンボルマークです。



## 死亡症例検討会について

研修医をはじめとする  
職員の学習、成長の場として  
定着させていきたい

上戸町病院  
医師研修専任主務  
柿本 奈々

基幹型研修指定病院では、臨床病理検討会（CPC）、または死亡症例検討会の定期的な開催が求められています。当院ではCPCの毎月開催が困難な為、2011年度より死亡症例検討会を開始し、2018年12月に46回目を開催しました。死亡症例検討会は「死亡症例のプレゼンテーションを通して、過去の医療行為や症例を医学的視点、社会的・倫理的視点や組織の安全管理の視点等から振り返ることにより、医療の質の向上や教訓を得る」ことを目的に行われます。

法人内の事業所、職種を超えて多くの職種がそれぞれの視点から、また、友の会より患者の視点に立った積極的な意見も聞くことが出来る機会となっており、1つの症例を通し、様々な学びの機会となっています。

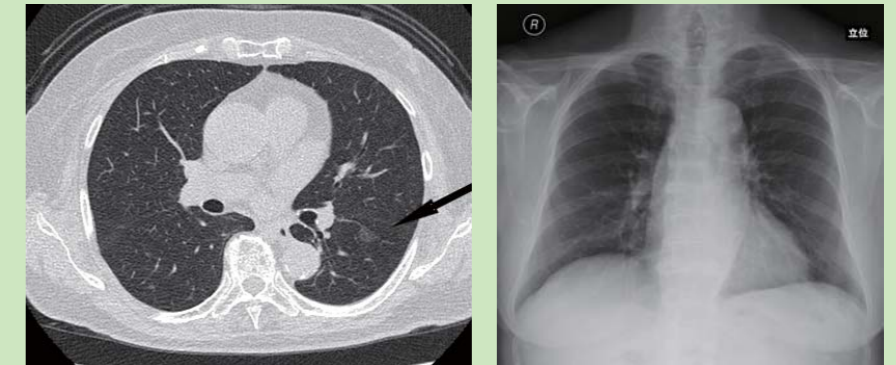
医局、病院、法人全体が関わる貴重な機会であり、今後も継続して開催をし、研修医をはじめとする職員の学習、成長の場として定着させていきたいと思っております。



## 肺がんによる年間死亡者数73,000人超え！ 早期発見に「低線量肺がんCT検診」を有効活用

放射線課 大塚正一

日本では、肺がんによる年間死亡者数が73,000人を超え、がんの部位別死亡者数では男女計で1位となっています。長崎県の肺がん死亡率は全国7位（2017年人口動態統計）と高く、毎年1,000人（男女比は7:3）が肺がんによってかけがえのない命を失っています。この対策として、これまで胸部X線検査と喀痰細胞診の検査が広く行われてきました。しかしながら、肺がんによる死亡率は高止まりの状況です。そこに希望の光として「低線量CT肺がん検診」が注目されてきました。2010年に米国の国立がん研究所から発表された高リスク群に対するランダム化比較試験（NLST）の結果は、「低線量肺がんCT」が死亡率減少に寄与する可能性を示唆しました。対して、「非喫煙者にこそ低線量CT検診が有効である」ことを実証する厚労省研究班のコホート研究も現在おこなわれています。ある研究では、胸部X線検査と比較した病変検出率は10倍高いという報告もあり、今後の研究成果によ



X線単純撮影では分からないスリガラス状陰影が低線量CTで確認できた症例

っては、日本でも死亡率減少に寄与することが実証される可能性もあります。

当院においては2018年8月から、肺がんの高リスク者である喫煙指数（喫煙年数×喫煙本数）が600以上で、50歳以上の方を対象に、低線量肺がんCT検診の受診を呼び掛けています。当院では通常のCT検査と比較し、被曝線量を1/6程度に低減して撮影をおこなっています。対象となる方はぜひ当院外来へご連絡ください。併せて当院では、がん予防対策で最も重要な「禁煙支援」を根気よくすすめていきます。

## 長崎民医連学術運動交流集会開催

「地域（まち）で暮らすを支える」ための実践を

実行委員長 中里博美

11月18日長崎民医連学術運動交流集会を開催しました。今年度は「地域（まち）で暮らす」を支える医療・介護を実践し、安心して住み続けられるまちづくりを進めよう」のスローガンの下、長崎健康友の会も含め225名が参加し、44名が発表を行いました。

記念講演は、埼玉医療生協大井協同診療所の鹿野睦子事務長を講師にお招きし、地域（まち）で暮らすを支える医療・介護の実践についてお話をしていただきました。今回の講演は、すべての職種にとって民医連で働くことの意味を改めて考え

るきっかけになったと思います。また、診療所だけで完結するのではなく、行政や地域などつながりながら取り組まれている実践は、今後の長崎での取り組みの参考になるお話だったと思います。分散会は、友の会や看護学生からの発表も含めて、複数の職種が日ごろの取り組みや事例の報告を行い交流できたことで、長崎民医連の活動の広がりをあらためて感じることができました。

長崎民医連全体で、「地域（まち）で暮らすを支える」ための実践を今後さらに進めていくことを確認できた集会となりました。